

令和5年度

授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和5年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和5年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科(様式3)

東京都北区立豊川小学校

〔様式1〕

令和5年度 北区立小学校学力向上を図るための全体計画

東京都北区立豊川小学校

令和4年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	国語は全学年で見ると、おおむね良好な状況である。4年生だけが、総合、基礎、活用とも標準スコアを下回っている。領域では「話すこと・聞くこと」に課題がある。
社会	社会全学年で見ると、おおむね良好な状況である。5年生は標準スコアを上回っているが、6年生は基礎が正答率で-5.4%、標準スコアで-2.7と下回っている。観点「知識・技能」に課題がある。
算数	算数全学年を見ると、おおむね良質な状況であるが、5年生が総合、基礎、活用すべてにおいて標準スコアを下回っている。また6年生の標準スコアは活用は上回っているものの、基礎が下回っているため、全体でも下回っている。5・6年とも「小数の計算」に課題がある。
理科	理科は5年生の活用以外、すべてで標準スコアを下回っている。特に6年生の基礎が正答率で-7.9%、標準スコアで-4と低い。観点「知識・技能」に課題がある。

本校の教育目標
<ul style="list-style-type: none"> ○たかましい子 ○あかるい子 ○かんがえる子 ○やさしい子

<p>本校が児童に育成したい力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等で育成すべき資質・能力を育むための基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる力 ・各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせて、自分の思いや考え方をもち、進んで表現する力

<p>学力向上にかかわる経営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の教科である生活科・総合的な学習の時間の指導の充実を目指し、児童が主体的に学習に取り組む基盤を培うとともに、各教科を横断的に学ぶことができるようにする。 ・各学年に応じた話し方・聞き方やふり返りの書き方を教室内に掲示し、あらゆる教科で活用していく。 ・授業改善推進プランを効果的に活用し、基礎基本の力を習得させる。 ・情報活用能力の育成を継続し、学校図書館やNIEを活用した豊かな思考力・判断力・表現力を養う。
--

<p>校内における学力向上推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北区基礎・基本定着度調査や都学力調査・全国学力調査等の結果分析を基に、学力向上対策委員会で教科ごとの授業改善方法、指導の重点方針を決定する。 ・国語は、第3学年からの辞典の活用、新出漢字の指導方法の統一化、ドリル学習を通じた基礎・基本の習熟、視写や短作文など書くことの指導などを繰り返し行うことで、基礎力の定着を図る。また、「豊川小学校おすすめの本」を低・中・高学年に分け決め、年間を通して多様な読書に取り組めるようにする。 ・社会は、世界地図や日本地図・年表を掲示して学年別に習得させる知識を日常確認できるようにする。また、毎週金曜日の朝学習の時間にNIEタイムを設け、時事問題にも関心をもてるようにする。 ・算数は、東京ベーンツドリルを活用した基礎・基本の定着を図るとともに、教具を活用し体験を通じた知識・技能の習得を図る。 ・理科は、既習事項を教室や理科室に常掲して、理科の用語の定着を図る。また、理科巡回指導を受けることで授業改善の工夫を校内で共有する。 ・学校図書館指導員を中心に学校図書館の整備・充実を図り、各教科で生かせるように計画する。 ・3年生以上は「比べて読もう新聞コンクール」に全員参加する。 ・毎週月・火・金曜日の昼時間に設定した「ぐんぐんタイム」、第3～第6学年までを対象とした「学力フォローアップ教室」など、授業時間外の指導を学校全体で支援し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童が主体的に学ぶ楽しさを実感するために、体験的な活動を多く取り入れ、問題解決的な学習を展開する授業を行う。 ・2年生以上は自分の考えを100字程度で表す学習習慣を身に付ける。 ・学習のめあてを提示し、授業展開の見通しをもたせる。 ・ICTを授業に活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の火曜日に朝読書、金曜日にNIE活動を行う。 ・行事を精選し、学力フォローアップ教室など放課後の学習時間を確保する。 ・「ぐんぐんタイム」を午後の時間だけでなく、朝学習の水曜日にも実施し、漢字・計算の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学ぶ児童の育成」を研究主題に、生活科・総合的な学習の時間を中心にして、校内研究を推進する。 ・研究授業とその事前授業など、各学年2回の授業公開をする。 ・巡回指導や観察授業も全ての教員に参加を呼びかけ、授業改善につなげる場を多く設ける。 ・OJTを組織化し、指導者を明確に位置付ける。 ・巡回指導の内容を還元する。 ・各行事や課題に合わせたミニ研修を月に2回程度行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」を目指した授業を行う。 ・各単元のねらいと評価基準を明確にしたきめ細かな学習指導計画を作成する。 ・1単位時間の中に児童が振り返りを行う時間を設け、評価規準に即した評価を行う。 ・評価の反省と、次時の授業の軌道修正、工夫・改善を行う。 ・「児童・保護者への学校生活アンケート」に授業に関する質問項目を設け、授業改善推進プランの評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や施設を活用し、学ぶ機会を多く設定する。 ・北区環境大学やお茶の水大学SECなど学部講師を招聘した学習を積極的に活用する。 ・ICT機器を活用し、補習としての教材配信を定期的に行うとともに、必要に応じて取組状況や課題を家庭に通知し、連携を図る。

[様式2]

令和5年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立豊川小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 基礎の正答率は、目標値と比較して3.8ポイント上回っている。活用は5.8ポイント上回っている。 最も上回っているのは、漢字の読み、書きであり、正答率は90%を超えている。正答率が低いものは、活用力であり、領域では書く単元、読む単元が低くなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」は、目標値より4.8ポイント上回っている。 「思考・判断・表現」は、目標値より3.1ポイント上回っている。 「主体的に取り組む態度」は、4.9ポイント上回っている。 全ての観点で目標値より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の低い問題を見ると、自分の考えが明確になるように文章を書くことや語彙が少ないことが課題であることが分かった。語彙を増やすことや文章を書く機会を多く作る必要があると考える。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 基礎の正答率は、目標値と比較して3.4ポイント上回っている。活用は、7.3ポイント上回っている。 唯一目標値より下がっているものが、「絵をつかったグラフ」で類型別誤答が15.7%、無回答が12.9%になっている。領域「データの活用」に課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」は、目標値より4.6ポイント上回っている。 「思考・判断・表現」は、目標値より2.4ポイント上回っている。 「主体的に取り組む態度」は、2.4ポイント上回っている。 全ての観点で目標値より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体ではポイントは上回っているが、データの活用に課題があること、無回答の率が高いことに気づいた。日常生活で身の回りのデータ利用の場面を作り、学年が上がる度に丁寧に指導していく必要があると考える。

[様式2]

令和5年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 基礎の正答率は目標値と比較して6.4ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して10.9ポイント上回っている。 唯一目標値より下がっているものが「ことばの学習」で「片仮名で書く語の種類をしり、正しく使う」という問題であり、目標値よりも6.6ポイント低くなっている。 類型外回答および無回答が多いのは、話の聞き取り、漢字の書き取り、説明文の読み取り、文章を書くという単元に多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」は、目標値より4.4ポイント上回っている。 「思考・判断・表現」は、目標値より7.4ポイント上回っている。 「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して13.4ポイント上回っている。 3観点全て目標値より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の低い問題を見てみると、言葉の学習・文章の中の重要な語を選ぶ問題など、言葉に対して課題があることが分かった。基礎知識として語彙を増やしていくことで課題を克服できると考える。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> どの内容についても目標値を上回っているものが多い。中でも「ひょうやグラフ」は11.8ポイントも上回っており、データを活用するという点でも優れている。 図形の内容はあまり高い値を出しておらず、特に「三角形と四角形」では、唯一目標値を下回る結果となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3観点とも、目標値を上回っている一方で、区の平均と比較すると約1～5ポイント下回っている。 「思考・判断・表現」は、目標値を2.5ポイント上回ったが、区の平均からは5.9ポイントも下回っており、既習事項をもとに考え方をまとめて説明することが課題であると考ええる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「たし算・ひき算」の内容は、知識・技能の点で目標値を上回っている一方で、結合法則の点から題意に合うよう式に括弧を付ける思考・判断・表現を問う問題では目標値を7ポイントも下回っている。

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値よりも下回っている。基礎は0.8ポイント下回っており、活用は2.2ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは「漢字を読む」で、目標値と比較しても4.7ポイント上回っている。また、最も正答率が目標値と乖離しているのは「文章を書く」であり、目標値と比較して12.2ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かったのは「知識・技能」だが、目標値と比較して1.2ポイント下回っている。</p> <p>・「主体的に学習に取り組む態度」、「思考・判断・表現」は、区の平均と比較して1.1ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が低かったのは、「調べたものを文章にまとめる」、「文章を書く」であり、目標値を大幅に下回っている。また、「話し合いの内容を聞き取る」ことも下回っており、自分の考えを相手にわかりやすく話したり、書いたりすることに課題がある。単純な問題の正答率が高い。一方文章にまとめることに苦手意識がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を上回っている。基礎は4.2ポイント上回っており、活用は3.5ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは、「表とぼうグラフ」で、目標値と比較して3.8ポイント上回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かったのは「意識・技能」で、目標値と比較して4.1ポイント上回っている。その他の「主体的に学習に取り組む態度」、「思考・判断・表現」も2ポイント以上上回っている。</p>	<p>・全体的に正答率が高く、算数に対して苦手意識が少ない。しかし、「長さ・重さ」が理解できていない児童が多い。特に単位換算が苦手な児童が多かった。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を下回っている。基礎は、2ポイント下回っており、活用は、7.8ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率の高かったものは、「こん虫のからだのつくり」だが、目標値を2.3ポイント下回っている。最も正答率の低かったものは、「電気の通り道」で、目標値を14.3ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かったものは、「知識・技能」だが、目標値と比較して、3.7ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低かったのは、「主体的に取り組む態度」で8.2ポイント下回っている。</p>	<p>・正答率が特に低かったものは、「電気の通り道」、「じしゃくの性質」であり、物理に関するものが多い。また、基礎的な問題よりも、知識を活用して解く問題に関しては空欄も多く、諦めてしまっている児童も多い。</p>

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して2.8ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して11.4ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「漢字を読む」で、目標値と比較して5.3ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「文章を書く」だが、目標値と比較して7.3ポイント上回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値より5.5ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低かった「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して8.6ポイント上回っている。</p> <p>・3観点全て目標値より上回っている。</p>	<p>・最も正答率が低いのは「文章を書く」で62.3%であった。</p> <p>・文章を書くことでは、特に「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」「内容の中心を明確にし、自分の考えの理由や具体的な事例を書く」ことに課題がある。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎力の正答率は目標値と比較して6.5ポイント上回っている。活用力の正答率は目標値と比較して2.1ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「くらしをささえる水」で目標値と比較して4.0ポイント上回っている。最も正答率が低いものは「先人の働き」で、正答率は目標値と比較して1.6ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して2.1ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低いのは「思考・判断・表現」だが、目標値と比較して5.4ポイント上回っている。</p> <p>・すべての観点項目の正答率が目標値を上回っている。</p>	<p>正答率35.1%の「先人の働き」は、「琵琶湖流水について、年表を読み取る」ことに課題があった。また、「都道府県の様子」では「広島県の地形の様子について、地図を読み取る(正答率56.1)」であり、資料を読み取って考えることに課題がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して1.5ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して0.1ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは「分数」で、目標値と比較して1.6ポイント上回っている。最も正答率が低いのは「面積」だが、目標値と比較して2.4ポイント上回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して1.7ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」だが、目標値と比較して0.2ポイント上回っている。</p> <p>・3つの観点項目のうち、「知識・技能」のみ、正答率が目標値を下回っている。</p>	<p>正答率47.4%の「面積」、55.7%の「わり算・計算のきまり」は、いずれも思考力・判断力・表現力だけでなく、主体的に学習に取り組む態度を問う問題で、根拠を基に自分なりの考えをもって解決することに課題がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して0.5ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して2.4ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは「雨水のゆくえと地面のようす」で、目標値と比較して12.4ポイント上回っている。</p> <p>・正答率の最低値は「水のすがた」で目標値と比較して2.4ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して1.7ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」だが、目標値と比較して0.1ポイント上回っている。</p> <p>・3つの観点項目のうち、「知識・技能」のみ、正答率が目標値を下回っている。</p>	<p>正答率が低い「物の体積と温度」「水のすがた」「電気のはたらき」は、いずれも観察や実験を通して学習した内容だが、既習の内容を基に結果を推測したり考察したりすることに課題が見られる。</p>

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して3.8ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して6.8ポイント上回っている。</p> <p>・目標値と比較して正答率が良かったのは、「話し合いの内容を聞き取る」で10.4目標値を上回っている。最も正答率が低かったものは「文章を書く」だが、目標値と比較して2.9ポイント上回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「思考・判断・表現」は、目標値と比較して5.5ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して5.3ポイント上回っている。</p> <p>・3観点全て目標値を上回っている。</p>	<p>・最も正答率が低いのは「文章を書く」で55.4%であった。</p> <p>・文章を書くことでは、特に「資料から読み取った事実を書く」ことに課題がある。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して5.5ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して3.4ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「自動車をつくる工業」で、目標値と比較して1ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「日本の食料生産」で、目標値と比較して4.8ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「思考・判断・表現」は、目標値と比較して0.8ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「知識・技能」は、目標値と比較して4.5ポイント下回っている。</p> <p>・3つの観点項目のうち、「主体的に学習に取り組む態度」のみ、正答率が目標値を上回っている。</p>	<p>・最も正答率が低いのは「日本の食料生産」で51.5%であった。</p> <p>・「日本の食料生産」では、特に「農産物の生産額の割合についてグラフにまとめる」「輸入などの外国との関わりにおける課題について考える」ことに課題がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して0.4ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して0.3ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「立体と体積」で、目標値と比較して0.4ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「割合」で、目標値と比較して2.6ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して0.6ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して1.7ポイント上回っている。</p> <p>・3つの観点項目のうち、「主体的に学習に取り組む態度」のみ、正答率が目標値を上回っている。</p>	<p>・最も正答率が低いのは「割合」で45.1%であった。</p> <p>・「割合」では、特に「基準量と比較量から割合を求める」ことに課題がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して7.2ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して5.1ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「魚のたんじょう」で、目標値と比較して3.2ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「顕微鏡の使い方」で、目標値と比較して11.2ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して3.2ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「思考・判断・表現」は、目標値と比較して4.3ポイント下回っている。</p> <p>・3つの観点項目のうち、「主体的に学習に取り組む態度」のみ、正答率が目標値を上回っている。</p>	<p>・最も正答率が低いのは「顕微鏡の使い方」で28.8%であった。</p> <p>・「顕微鏡の使い方」では、特に「スライドガラスについての理解」と「顕微鏡を扱う手順等の理解」に課題がある。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの学習を終えたが、ほとんどの児童が分かるようになってきた一方で、ひらがなが読めない、書けない児童もいる。そのため、個に応じた対応が必要である。 ・話していることを最後まで集中して聞くことや、話の内容をとらえて考えることに課題が見られる。そのため、最後まで話を聞くこと、大事なことを落とさないように聞く力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがながまだ身に付いていない児童には小さい50音表を用意したり、一度教師が読んでから読ませたりなどの工夫をする。 ・話し方、聞き方のポイントを示し、繰り返し取り組んで習慣を身につけさせる。また少人数で話し合う機会を作り、相手の話に関心を持ち、尋ねたり応答したりする活動に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをしたり、学習の途中でプリント学習などを行ったりして文字の学習に対する補充や発展問題に取り組ませる。 ・国語以外の学習でも児童同士の話し合いを設けたり、学級活動で学級会を行ったりして、相手にわかりやすく話す力、大切なことを落とさずに聞く力を養うようにする。また、常に相手意識を持たせて、場に合った話し方ができるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の量を増やしていくこと、文章を書くことに抵抗をなくすことが課題である。読書量を増やしたり、様々な人と会話する機会を作ったりする必要がある。 ・文章を書くことに抵抗がある児童が多いことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすために、読書量を増やしたり授業中に児童どうして自分の考えを伝える機会をつくったりする。 ・文章を書く際には、苦手な児童にとっても書きやすいよう書き方の例を示したり、相手に伝えたい内容が課題になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に友達に自分の考えを伝える機会を作ったり、話し合ったりして、伝えたい意欲を高めるようにする。 ・国語の時間や図書の時間を活用して、図書支援員と協力しながら読み聞かせを数多く行うようにして、語彙を増やすようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や語彙の量を増やしていくことが課題である。学習中に分からない言葉があれば辞書を使って調べ、自分の知識へと定着させる必要がある。 ・文章を書くことには抵抗感の無い児童が多いが、内容的に稚拙だったり、文章の決まりを守れない児童もいる事が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習中に辞書を引かせたり、漢字の学習の際にその漢字を使った様々な言葉を読んだり書いたりすることで語彙を増やすことができるようにする。 ・児童が本当にその言葉を知っているか問い返すことを意識する。 ・文章を書く際には苦手な児童にとって書くことが退屈にならないよう、書きやすいワークシートを用意したり、書き方の型を提示して書きやすいように授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の校長先生のニュース等で、知らない言葉があったら調べる活動を行う。 ・分からないこと、知らないことを教員が全て説明するのではなく、児童同士で説明したり、話し合ったりしながら知識の定着を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年相応の漢字の定着や語彙の量に課題が見られる。一度指導した後、繰り返し指導を行うことが十分にできていなかった。 ・自分で考えて文章を書くことに課題が見られる。書いた文章を見直したり、友達と見比べる機会を多く設けられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐんぐんタイムなどを活用し、繰り返し学習を積み重ね、知識の定着を図る。 ・書いた文章を見直す習慣を身につけさせ、誤りに自分で気づき修正できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業において、ノートやプリントに記述する際にも習った漢字を正しく使用したり、国語辞典や漢字辞典を常備して確認することを意図的に指示したりして、学習を進める。 ・書いた文章を友達と見合い課題を伝え合うことで、自己の課題を把握できるようにしていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 感想文を書くことや説明文の要旨をまとめることに、苦手意識が高い。「初め・中・終わり」の文章構成を理解する必要がある。文章がどのようなまとまりで組み立てられているか理解し、文章を書く練習をすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 要旨をまとめるときは、特に「初め」「終わり」に筆者の考えの中心があることを捉えさせる。文章の要旨を、決められた文字数でまとめる練習を定期的に行っていく。 ・漢字小テストを定期的に行う。漢字のまとめテストでは再テストを繰り返すことで定着を図る。また、国語辞典や漢字辞典を常備して確認することを意図的に指示したりして、学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語と総合的な学習を横断的にすすめる。総合的な学習の時間で児童が興味を持った事柄について調べ学習を行い、「引用する」「要旨をまとめる」などの練習を行いながら、まとまりのある文章を書く力をつけさせる。 ・図書支援員と連携しながら各単元の関連図書にも触れさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・得た情報を整理し文章化をすることができていないので、書くことを重点課題とした授業の展開を増やす必要がある。 ・文章化する前段階の、「自分の考えを深める」ことに課題がある児童が多い。そのため、考えを深めるための手立てを指導に取り入れていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まとめ」や「振り返り」等で、視点を示し、書く活動を積極的に取り入れる。 ・個人で考えるだけではなく、ペアやグループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えを深める時間を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEを推進し、書くことに慣れさせていく。 ・新出漢字を使った熟語や言葉を調べる活動を取り入れ、文章に生かせるようにしていく。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りの仕方、まとめ方など、まだまだ児童にとって定着していない部分が多いので、一単位時間の学習の流れ(問い→予想→結果→まとめ)を定着させて取り組むことができるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心が高まるような導入時の工夫をすることで、意欲的に学習に取りくめると考える。 児童が知りたくなる、調べたくなるような問いを設定する。 ICT機器や具体物や多様な資料、およびフィールドワークを行うことで学びを深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ラインズイーライブラリを使用して、学習した内容の定着を図っていく。 まとめの際には、国語や算数の知識を教科横断的に生かすことができるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りが苦手で、学習内容が自分の生活と結びついていない場合が多い。教科書の図やグラフを使って資料の読み取りを丁寧に指導する必要がある。また、学習内容を生活に結びつけるような指導計画を立てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象を例に挙げ、児童が興味関心をもつことができる授業を展開する。 資料の読み取りが苦手なので、教科書の資料を活用し、そこからわかること、考えられることをまとめる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に見学できる場所には、積極的に行き、体験や見学をして自分の生活と結びつけながら理解できるようにする。また、見学ができない場合は、有効な資料提示と共にインターネットや動画を活用していく。 ラインズeライブラリーを活用し、復習問題に取り組ませる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 4教科の中で、社会の「主体的に学習に取り組む態度(51.1%)」が低い。児童にとって身近な事柄やニュースなどを例にあげるなど、導入時の関心・意欲を高める必要がある。 正しく読み取り、自分の考えを表現する力が弱い。グラフでは、読み取り方の基礎ができていない場合が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く「問い」や本時の「問い」を工夫し、児童の身近な事象と結び付けるなど、興味関心を高める授業を行う。 動画や写真などICTを活用し、より興味関心を高めるような教材を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとにロイロノートでまとめ、互いのよい点を見付ける学習を通して、思考力・表現力を伸ばしていく。まとめの時には、社会科資料集や教科書・インターネットなど複数の資料を使い、発展的な学習をすすめる。 単元ごとの小テストを行い、学習の定着を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 知識としてただ覚えさせるのではなく、児童が自分事として社会科の事象を捉えさせる指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」や資料を工夫し、児童の主体的な学習になるような課題設定をする。 社会科の見方・考え方を働かせ、どのような理由や事象から結果に至ったのかを整理させ、知識・理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> NIEで社会の事象に興味・関心をもたせ、その原因や解決策、これから起こることなどについて、社会科の見方・考え方を働かせながら、記事の内容を捉えられるように指導する。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算に関しては概ねの児童ができています。しかし問題を解く時間の差が大きい。計算に時間がかかる児童の速度を上げる必要がある。 ・文章の意味理解が不十分なことが多く、文章題を読み取り、たし算なのかひき算なのかわからないことがある。そのため正しい答えを導くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一部で計算カードやプリント問題に取り組みせ、計算の機会を与える。 ・文章題では、問われていることや分かっていることに下線を引く習慣をつける。また、文章の内容を理解できるよう図や絵を用いて可視化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードをペアで取り組みせたり、慣れてきたらタイムを計るなどして、楽しく活動できる場を設定する。 ・立式の根拠を伝え合う活動をしたり、友達の考えと自分の考えを比べ、何を問われているかを確認したりする学習を取り入れる。文章問題をたくさん解く練習をして、解き方に慣れるよう学習をすすめていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能は高いが、問題を読み取ったり、問題を作ることに苦手を感じている様子が見られ、たしざん、引き算の本質を理解出来ていないことがうかがえる。 ・グラフの問題では日常生活と結びついていない児童が多く、整理することを面倒と感じる児童もいることがうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を正しく読み取る力をつけるために、図を描いてイメージしたりキーワードを見つけたりする授業を展開する。また国語の学習と関連付け、文章題を短くわかりやすく理解させるようにする。 ・算数の問題を日常生活と関連付けるようにし、机上だけで終わらないような授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や絵が良くかけている児童のノートを授業中公開したり、問題を作ったりする学習を展開する。 ・算数的活動をメインにした授業を展開し、体を動かす活動を行ったり、実際の場面を想定した問題を用いて学習を進めるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能は高いが、問題の読み取り、立式、答えまでが繋がらない様子が見られ、問題解決のプロセスを正しく理解させる指導が十分にできていないことがうかがえる。 ・簡単なわり算でも、既習のかけ算をもとに解決するのに時間がかかる児童がおり、かけ算・わり算の習熟を図る指導が十分にできていないことがうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の把握、解決の見通し、自分や友達の考え、まとめなど一貫性をもたせた授業を展開し、問題解決のプロセスが見えるよう工夫する。 ・わり算の指導の際、商の確かめの意味をこめて、既習のかけ算を復習する機会をもうけ、かけ算九九の習熟もあわせて図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かけ算パワーアップカード」を使ってかけ算九九を唱える課題に常時取り組みせ、わり算とかけ算の関連を確かめながら正しい計算ができるよう習熟を図る。 ・学習の振り返りを書く際、友達の考えで自分の考えが広がったこと、深まったことを書くように指導し、児童自身が学びの広がり・深まりを感じることができるようになる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の定着に個人差が大きく見られる。一方で計算方法や理由を説明することが苦手である。答えを導く過程を大切にしたい指導が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業を取り入れ、答えだけでなく、なぜその答えが導き出したのかを説明したり、図や式を使って表現できるようにする。 ・「知識・技能」の能力が下がらないよう、ぐんぐんタイム等を利用し、基礎・基本の定着を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまずきの見られる児童には、個別に指導すると共に、四則計算の正しい行い方を身に付けさせる。 ・習熟の程度が高い児童には、自分の言葉で友達やグループ全体に説明ができるよう指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・面積やわり算の単元の理解が不十分である。面積の求め方やわり算の筆算などの基礎的な知識・技能を習得するための指導が不十分であった。 ・グラフなどを読み取ったり、説明したりする問題が身に付いていない。読み取り方や数値から分かることを説明する指導が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の求め方、わり算の筆算などの基本的な知識・技能をぐんぐんタイムを通して身に付けさせる。 ・四則計算は、日常の授業でも繰り返し練習し、理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまずきの見られる児童には、個別に指導し、基本的な知識や公式を再確認して定着させる。フォローアップ教室担当教員とも連携し、課題となる単元を重点的に指導できるようにする。 ・習熟の程度が高い児童には、答えを導き出すだけでなく、その過程や答えとなる根拠を明らかにできるように指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言語化する学習を中心とした指導の工夫が必要である。 ・目標値との比較で「小数の計算」、「分数の計算」について、定着度が低い。定着を図る授業改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章化するだけでなく、友達の考えを代わりに発表したり説明したりする授業を取り入れていく。 ・授業の中で復習の時間を取り入れて、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEでグラフや表の数値に着目させ、データで示された内容をどのように文章で伝えているのかを理解させる。記事の書き方を参考にし、書き方・まとめ方を定着させていく。 ・デジタルコンテンツを活用する。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・予想→計画→実験・観察・調査→結果→考察→結論という学習の流れの定着化がまだ難しい。	・毎時間しっかりと理科の学習の流れを担任も意識しておき、児童にとっても次どの学習を行うかの見通しをもちやすくする。 ・児童が意欲的になるような導入の工夫を行う。 ・体験的な活動の充実を図る。	・基礎知識の習得のためにラインズイーライブラリを行う。 ・ペアで自分の予想を伝え合ったり、班で考えをまとめるなど、友達と協働しながら考えを出すことができるようにする。
4年	・実験に対する意欲は高いが、そこから考察を考えることが苦手な児童が多い。実験から考えられることは何なのかの考察を中心とした指導をしていく必要がある。	・実験だけで終わることのないよう、そこから考えたこと・思ったことをまとめ、発表する時間を必ず作るようにする。また目に見えない事象を扱う場合は、動画資料や教科書の写真を利用し、児童がわかりやすく学習をすすめることができるようにする。	・理科実験支援事業を有効利用し、児童が理科を楽しみながら理解できるようにする。 ・ラインズeライブラリーを用いて知識の定着を図る。
5年	正答率は目標値を上回っているものの、児童の理科に対する学習意欲が低く、自信がないため、予想や考察で手が止まってしまう児童が多い。学習意欲をもたせるための指導が必要であった。児童が興味や関心をもって取り組める導入を工夫し、観察・実験を意欲的に行えるよう指導する必要がある。	・児童が興味や関心をもって取り組める導入を工夫する。 ・観察・実験や自然体験などを取り入れた体験的な活動の充実を図る。 ・観察・実験結果を一人一人が自分の言葉で考察する時間を設定する。	・テスト前後に復習の時間を多く設定することで、知識の定着化を図り、自信をもたせる。 ・ラインズeライブラリーを用いて知識の定着を図る。
6年	・どの単元においても基本的な知識理解が不十分である。学習意欲をもたせるための指導が必要である。 ・実験や観察を行う前の段階で児童の思考を促し、言語化させる指導の工夫および改善が必要である。	・理科の見方・考え方を働かせ、既習の学習内容や生活経験から予想を立てさせる。 ・算数と関連させ、結果を数値化して客観性をもたせる。 ・実験結果や実験方法を振り返り、予想や仮説において妥当な考え方ができていたのか振り返らせる。 ・実験の再現性について、他のグループとの結果を比較させる。	・NIEで理科の事象に興味・関心をもたせ、その原因や解決策、これから起こることなどについて考える時間を設定する。 ・デジタルコンテンツを活用し、既習の学習の定着を図る。